Glocal Healthcare

インド（南アジア）

代表的な疾病に集中することで、地理的なカバー範囲を拡大した医療サービス

3 すべての人に健康と福祉を
9 産業と技術革新の基盤をつくろう
17 パートナーシップで目標を達成しよう

インドの農村部は医療インフラが脆弱であり、診療を受けるために長時間かけて移動しなければならないことも多い。広大な土地と膨大な人口を抱える同国の農村部に医療サービスを提供するために、診療対象とする病気を絞り込み、ICTを活用している事例である。

背景にある社会課題

- インドでは医師の8割が、人口の2割を占めるに過ぎない都市部に在住している。
- 農村部の医療インフラは脆弱で、アクセスの難しさや、診療水準のバラつきが課題となっている。

ビジネスモデルと製品の特徴

- 農村部に大規模な病院を建てるのはコストが大きく、採算が取れるか見通しにくい。そこで同社はインドの患者数の95%を占める代表的な42の疾病に焦点を当てた「（比較的）低コストな病院パッケージ」を開発した。
- 離村などには、小規模の診療所とICT技術を組み合わせて対応している。

SDGビジネスへのアプローチ

- 病院は、42の疾病に集中することで、スリムかつ効率的な設計を実現している。医師によるバラつきをなくすため、「医師主導」の診察から、管理システムによる「プロトコル主導」の診察へと転換させ、一定の医療水準が確保できるようにしている。
- それでも病院が建設できないエリアに対しては、モバイルアプリを通じて「オンラインでの医療相談」を提供しているが、このようなオンライン相談の弱点であった検査の難しさなどを解消するため、小規模の診療ブース（医師は遠隔、看護師が常駐）を設置し、患者が検査を受けた上で、そのデータをもとに医師が遠隔から診察を行う体制を整備している。

SDGsへのインパクト

- インド内外で12の総合病院、250を超える診療ブース、広範な遠隔診療ネットワークを運営し、これまで医療サービスへのアクセスが困難だった人々を包摂している。
- 2021年にはナミビアとウズベキスタンで現地政府と合意し、これらの国々でも展開予定。

成功のポイント

❶ 医療サービスに包摂されていなかった人々へアプローチするにあたり、すべてをカバーしようとするのではなく、最もニーズのある疾病に絞り込むことで、身軽な展開を可能とした。
❷ オンラインでの医療相談だけに止まらず（物理的な）診療ブースを組み合わせることで、基本的な検査や処置などを可能にした。